

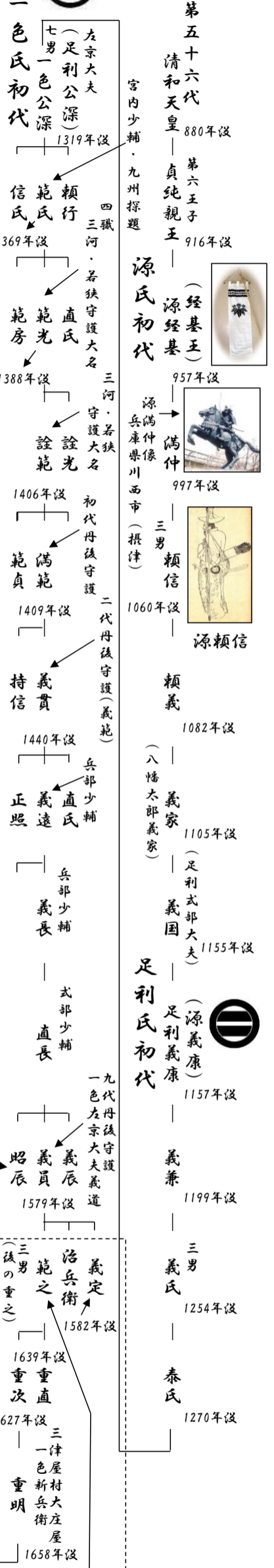


一色正喜家 (本家)

【圓福寺過去帳】 明理川初代 (同族を頼って九州から)

【長福寺過去帳】

まるにふたつびき 丸に二つ引き



清和源氏義家流足利支流一色氏

明理川一色家系図

一五七八年丹後宮津城落城
丹後一色氏は四国や九州へ分散した
当家の先祖は九州へ(九州征伐に参戦)
一六〇〇年代に伊予の国・広江を経て明理川に入る

平成十八年十月吉祥日 圓福寺位職石丸祖岳編纂
平成二十七年十一月十四日 先祖祭り一同にて、追記

長市は、姻戚である徳藏家で豊一・時義と共に兄弟のように育てられた。長市家にとって豊一家は、母家のような存在である。

本家の武具は、昭和30年代に全て古物商へ譲渡した。



平成27年11月 本家と共に先祖祭り

豫州重之流始祖 一色右馬三郎重之
天正8年、戦国武将一色右馬三郎範之(後の重之)は丹後国宮津城の落城前に外祖父である河野通泰との縁により、子の重直・重次(6歳双子)、家臣赤澤某、伊藤嶋之助、佐和小十郎等十余名を連れ、再起をかけて伊予国へ来た。当時新居郡の旗頭であった石川氏の食客となり新居郡萩生村に居住。そして、代官となっていた重之は命により古城に居た北条の地頭越智勘左衛門を討って移り住み、そこを「三ツ屋」と称した。